

お百姓ひゃくしょうとからす

滋賀県

むかし。

お百姓が、たんぼをたがやしていました。夕方、家に帰るとき、田んぼに鍬くわをわすれました。すると、道のとちゆうで、からすが、

「くわあ、くわあ、くわあ」と鳴きました。お百姓は、

「ほお、おかしなからすだ。鍬、鍬っていつてるぞ」と思いましたが、鍬をわすれたことには気づきませんでした。

家の前まで帰って来ると、にわとりが、

「とつてこおい、とつてこおい、とつてこおい」と鳴きました。お百姓は、はっと気がつきました。

「鍬をわすれた。とつて来よう」

お百姓が、もどりかけると、牛が、

「もうない、もうない」といいましたとき。

おしまい

村上郁再話

資料『近江の昔話』笠井典子／日本放送出版協会